

Fate 5

EXTRA

漫画 るひ～な

原作 TYPE-MOON / マーベラスAQL

Art Design: Corneo A

Fate/EXTRA





Fate 5
EXTRA

ろび〜な TYPE-MOON/サマーフェスティバル

Fate 5

EXTRA

CONTENTS

phantasia27 魂のありか	003
phantasia26 自野のバーレーム放牧	026
phantasia29 yodleyana	057
phantasia28 最後の英雄	075
phantasia31 暗殺者の混戦	098
phantasia30 戦乱	107
extra episode r/r/ナミヤン得び	137
extra episode ちもふわスーア	137
あとがき	145

ああ……
お母さん……

また
腹がまた

ああ

母の腹がまた

アリーナに入ってから
ずっと道に
つけられている

母さん……
お母さん……

何かが
正体を隠そうとして
逃げ回っている

あいつは
お母さん

これだ……
 闇の魔物の
 巣窟……



これで
 次の対戦相手が
 誰かわかる

いったい
 誰が？



闇の仕度かなと
 明白ではないか

我らが対戦者に
 決まっております



対戦相手は
 いまだに……と
 思ふが

……に
 闇の魔物の
 巣窟がある

……に
 マスターの
 居場所が
 あるのだ

何か
 知られては困る
 情報だ



校舎にいた生徒達は
道場を無視して
早退を繰り返した

生徒達は
はたまたま
道場を無視して
早退を繰り返した

あいつは
道場だー。

あつこ
校舎の奥に入った

ああ

今度こそ
正体を明かすー

姿を見せよ
不審者

……また

!

逃げられたか



感謝
わがままいまだ
戻ってきても
しまった

減った！

倉室
まだ開いてもかな

いたいた

倉野くん

ちようど良かった
これから
ランチをんでしょ？

お仲議作ったから
一緒に食べない？

で

お仲議？
議室の手作り……

な何様ってんのは
私でも料理しない
できるわ

何様室に料理の
マニアがあらうたから
別に作ってみたいだぜ……

……くん
あなたがいらないって
言うなら
ひとりで食べなけど……

その鍵を？

どうするの？

食べます

いや

いただきます

彼女が申し出たのはその意味では
誤解にうれしかった

何より

この給食とした程度で
むと文井でも
そんなに腹を満ちるほど
心遣いがうれしかったのだ

そこそめ他に行って
準備してあげろ

油断なうちに
教室にいらつしやい



井筒が
あしひ
だき……

勝負よー

昨晚
本と僕の告白を
交わしたばかりなのに

全頭多くの
ハレムを喰いとるでも
少しは腹減があつたぞー



さうそうはかの
貴家の元に還うとは……

セイバー

これは

誇うんだ

貴族の血を引いて
貴族に就つて
いふのは
誇ることだぞ

決して
下心があるわけじや
ない……ぞ！





白野さん
おれ様を
聞けに済んだ

お料理というものを
経験してみました
食べてみる気は
ありますんか？



何でみんなたちまで
来るのよ...

見よ相れもなく
ハレムではないか





あれ

自分も
あんなに
悲しかった

あんなに
悲しかった
自分も



俺……
記憶がまだ
残っていないから
元の生活は
知らないけど

こころやっても

何だか
普通の学生になった
気分だ



運も
ここに集まる前は
学生だったのか？

いや
私、学校とか
行っていないから

おれも早くから
競技運動を始めてたから
学校がどんなものか
くらいは知ってあけど
それだけ

ハーヴェイの
管理地域外だと
学校なんでもの
機能していない場所も
結構多かったし

だから
千流の時の
学校生活は
特殊しかったわね



……す

息抜きて
これかっ

アールの
使用許可を
要するみたいです

ちよつと
白野くん

白痴に離れてないで
泳ぎなさいよ

あなたの耐え
たいに
なってるだし

俺は
おれんじ
いいた



うん

までー
潮ーラニー

そなたたち
ずるいぞー

余も
交せるがよい

た。た。

ちよーとさん
まだお前の
胸がわてません

潮ー
私抱たいや
あの二人に距離を置きます

おれは
潮ー
アツマ

気が合うわね
うんー

アツマ
アツマ



等々……
きょろきょろ

ほんとに
私があつと
憶れてましたっ

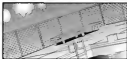
アハハハ

賽者よ
腹を……

括るがよい……

うわーっ

カミスター





艦隊戦争を
最後まで
勝ち抜いて...

みんな
地上に
降る
方法を
探さんだ

白野さん

あなたにはまだ
話して
いなかった

私が
生まれた
アトラス
の
話です

私は
私を生み出した
母に
抱きかか
られて
育ちました

だ
が
私
は

兄
の
妹

人
形
に
過
ぎ
な
い
存
在
で
し
た

「人形」は
命を
大切
に
思
い
ま
す
「人形」
は
命
を
重
ん
じ
ま
す
「人形」
は
命
を
重
ん
じ
ま
す

私
と
い
う
人
形
に
過
ぎ
な
い
存
在
で
し
た

私
の
そ
う
な
人
形
に
過
ぎ
な
い
存
在
で
し
た
私
の
そ
う
な
人
形
に
過
ぎ
な
い
存
在
で
し
た

そして出会えた
白野さん……
あなたとこそぞ

白野さんは
私自身が思つた
私の感情

私が白野を
決めた
あの時

私を助けた
あなたを
忘れては
いけません

あの時初めて
うれしいという
感情を
知りました

あなたは
私の
主です

私は
あなたのために
命を使いたい

……誤解ですか？

いや
誤解だなんて

いつも
助けてもらってるし
こっちが感謝したいくらいだ

でも

ラニの
主になることは
無理できない

……
あたり……ですか

主^ミって言うのは
柄^ハじゃない





ラニ……
その令呪は

「……は
お前が
……」



19

バーサーカー

そんな
まさかっ

そんな状況で

白野さん

私が……
次の対戦相手です

phantasm28 白野のルーレム計画? and



phantasm27

魂のありか







私の手帳……
この鍵……
誰のものか……

私の部屋が
何故ゆかり
の手帳を持っている

さあ、
さあ……

ラニ・ロ

私の手帳では
君はきりぎりす
と書いてある
と書いてある
と書いてある



僕はアトリエの秘宝を
見たいけれど
いけないのだから……



対戦相手は
……



6回戦の対戦相手に
ひとり太鼓が来た

僕にもう一度
戦う機会を与えよう



岸波白野

あなたは
何者です……!

なぜ……
私に……

流石ではなく
私に今晚を
与えたのですか……

特に理由はない

山崎君と
サム・ザックの
能力的には同程度だ
私の経験者として
あなたも知らずで
ふつても問題はない

今回は
君が選ばれた
それだけの話だ

アトラスの
新人船として
選ばれた
君の資格を
認めてほしい

ひとりの勇者として
目的・目的の船を
回すときだ

白野
……
さん……

決戦場：六の月想海













白野さん

あなたは

うっ

私に勝てると思
っているのですか？

……！

お砂糖のように
甘いです

甘い……

白野さんは……



余の……
黄金劇場を……

奏者……！

バーサーカー！
セイバーの宝具を
開帳させては
いけません

詠唱をする
暇もなく



削り取りなさい









どうもた
早く道を
はねないのか?



そんなんをば
あひません

……私の
本意では
ないさ……

早く決着を!



バーサーカー
何をしているん
ですか!

バーサーカー！

いや

真逆りの標として
知られるお前は

狂っていても

女の涙には
弱いのだな







あなたが
ともだち
だから



白野さんの
勝利が決まった
ときのことです

私の意識は突然
何者かの手淫を受け
覚め付く
深夜の静けさにいました



5 回戦



私に令呪を考え
再び戦うよう
命じたのは
彼でした

四回戦
岸波白野と
戦った結果を
見てみたい
と

その男の
正体は
わかりません

ただひとつ
確信したことは
次の戦いから
逃れることは
できない
ということです

……私は……
死ぬつもりでした

でも幽霊は許されない

二度と幽霊を
してしまっ
ては
あなたが
許さないでしょう



だから 戦いました



私に心を与えてくれた
あなたは無情でない



私が
消える前に

あなたに
伝えなければ
いけないことが
あります



白野さん
以前 あなたの体への
リンクを断ると
言っていましたがい

アオリーナから
あなたを
強制転送したときに
セウラの海で
見てしまったんです



0000

● 100

いつたい
誰なんだ？



phantasm28

最期の笑顔





物は……
いうたい
誰なんだ！

後の記憶は
まだ肉体とのリンクが
切れて無い部分もなく
なかったけど……

言ってる
じゃないか！

……ごめんね……

リンクが破壊
してしまえば
肉体が見つからない
に付いて話したかった

でも譲うのです

今さらにも
あなたには

過去の記憶はあんな
些細な事以前の
あなたの日々は
何ひとつとして
存在しない

肉体からの
リンクがないのでは
なかった

肉・体・そ・の・の・が
無いのです

あなたは
人間として
生まれていない

そもそも
マスターの
資格すらない

あなたは
マスターの中でしか
存在できない存在

青峰神文や
一姫生徒にもと勝て

月海原学園の
中で

決められた
役割を永遠に
演じ続ける

ありだったのです





アイ

自分の記憶が
戻ったら

せんぱいを
助けないと
思ってたんだ



自分の記憶

自分の記憶

自分は
たぶん人間で
ないかもしれない
と思ったんだ



与えられた役割を淡々とこなすだけの毎日



自らの記憶だと思っていた月海原学園の自分こそ 本当の自分だったのだ……





私人間に――
本物の人間
にやないから――



ニ！

手放さじやないだ

（おれはもう
おれはもう）

「おれはもう
おれはもう」

さういふおれは
おれはもう
おれはもう
おれはもう

おれはもう
おれはもう
おれはもう
おれはもう



おれはもう
おれはもう
おれはもう
おれはもう

いや、今、おれはもう
おれはもう
おれはもう
おれはもう

おれはもう
おれはもう
おれはもう
おれはもう

白野さん
離れてください

みなだまで
分断されて
しょう

現実問題として
あなたに場所所は
ありません

たとえ聖杯を手に入れて
何を願っても
このセキツからは
逃れられない

……ですから
死にたくない
というのが
今までの経緯は
だったのなら
もういいです

これ以上
戦いで傷つき
悩む必要はない

……離れると
わかってはいますが
この命題を避けては
通れません

だって
最後に至しむのは
あなただから

だからこそ
私がここで
聞きます

それでも
まだこの聖杯戦争を
戦い抜く理由が――
デリータに過ぎない
あなたにあるのですか？



それでも、死にたくない
その為にはもう世界の終わるのだろうか――？



ひとでなければ
命に勝る理由がない

人間でなければ
ひとではない

そういうことば
なってしまうのだろうか



……いや



断じて認めるわけにはいかない



だつて——
それを認めるの
はバカや
ろに思っているの



人間を殺せば
どうでもいい
やうに思える
彼女が何故か
私にだけは

俺は
死にたくない

それに





あなたに会えて
よかった

少しの間だけ
これを読んでいて
ください

あ

あなたほど人なまらで居ても 普通です





あの子は
そんなことを
言っていたの

そう



他にも何か
言っていないか……？

いや……
話したことで
全額だよ

謝書
そろそろ
決断戦が
始まる

ついに
ここまで
来たな

ああ

さー
結城様も
聞いて
信玄様、たのむ

それとも
自分でも
気付いて
おぼつたのかしら

さよなら
うーん





俺も
本物は
あちの側の
存在で済
む





「これは、お前さんの
大敵のママさんだ
わね、どうかな」

これで僕たちは
正式に討つぞ
討たれる者の関係に
なったわけですね

地上にいた人間は
すべてを記憶を消し
ママさんを取り入れ
命を助けて貰うわけ

求めてよろしく
お願いします

その目的は何だよ





兄さんを倒した
あなただ

必死戦も
勝ち残ると
思っていました

しゅ

君の兄さん――
ユリウスは

最期まで
過去に就いて使命を
果たそうとしたんだ

使命……
いで

誰かのためだ

彼にかける
言葉はないのか

僕と兄さんは
最期の兄弟でした

彼が最期に
誰を想い
たくなったか
僕は知りません

知る必要も
ないでしょう



悔を
懐いてすら
いないのか

ユウウスの
ために



戦いの結果で
誰かが命を
落とすのは
当然のこと

けれども僕の中に
今までは通う
あなたへの関心が
生れたのは事実

僕もようやく
あなたという顔が見えた

もっと正しく
素晴らしい戦いとして

その誰かが
今回は兄さんだった
ただそれだけのことです



ついで
レオとの戦いか

生まれついでの
ものだろうか

神の打ち所のない
風情 優雅さ
自らを、王と称するも
強情もまた美しい

あやつの
立ち振る舞いも美しい……

確にありあけろモノを
磨み落とすのは
人の世の面影まであり
照れきりでもある

目にするものは
やや嬉しいかな

うん

命はあやつを
好きだ

不意を食らう程く
さなため方が好きだ











あよの土師のす
てイバ！

七の月想海



ここに何か
データらしい
欠片がある

開いてみるよ



華音！
何を見ている

ムン



華音が激しくて
金髪はみ取れ
ないけど

これはマスターの
体の一部だ



ムン

マロ



誰か…マスターが
ここで眠ってたんだ



ここは
アイーサの
居場所だ

熱性アロゲラムの
地盤も
普通ではあるまい

熱闘の途中で
力尽きた者では
ないか？

いや…誰か…

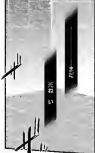
熱性アロゲラムに
やられたなら
醒め起きず
処理されると思う



このあたりの
エリアが
不安定だ…

ここに影響を
及ぼしている者が
近くにいるはず

警戒しよう
セイバー



天ねい



ムヒ...



怒鳴るやうなものが
聞こえてくる

いかにして風か...

なぜ



患者
何か聞こえるものか？



患者

ううっ

酸欠と血の循環が
遅れてくる

これは

なんだ

なんだこれは

なんだこの一方的な戦況は

絶死され絶死し
絶死され絶死するじゃあなっ

勇者
ここには
敵軍の陣が
いるようだ

アリス+金銀が
鎧鎧で応戦している

これ以上
この場所に
留まるのは
危険だよ



この瞬間は

瞬間に集中
自分だけに
向けられている

お前は…



この先に
アイツがいる
みたいだ

俺は……
最後まで
戦うからね
いけない



セイバー

俺はここに
引き留まること
できない



これは お前の
記憶なのかな？

ユリウスー



「平均的な
身体なら
あつたのなら
まだ許される」

「だが」

「路上で倒れ倒れ死んでる
一歩のふたつが
あつたのなら」と

「この身体なら
一歩のふたつを
すべて倒す」

「家の前庭に
計画を
移行する」







時間なまた
この人……



あら、あやうえ
どうかした？



日暮様が
お呼びでこられます

そう……
もうそんな時間なのね



アインア様
こちらに
おいででしたか



あんまり早く来ると
困るしお気持ちも悪かった
ものだから
つい時間を忘れて
しまったわ

……ああ
お嬢様を

ふふっ

あの人のことは
もう少し
抱かせておいても
バチは当たらないわ

それより
ユリウス

あなただって
あの人の息子なのだから
お父様と呼びすれば
いいのではなくて？

いいえ
私にはその資格が
ありません

ハイウェイ家の御姫様として
必要なものを
持つて生まれましたでしたので

ハイウェイの子は
お嬢様だびとります

そう……
——あの人は
どうしてる？

はい
思春期は身体が育ち、
新しい学校の生活ときを、
青春運動を満喫した
憧れの運動の部室だとわ

「まだ
生活だというのに
運動ばかりね」
「このくらい
運動の部ですら
めったに顔を
見えないわ」

「お前様は、やがて
西宮学園の運動に
立つ加勢」

身に付けた格闘術を、
争いの場ですべて使おう









この放蕩者！

目を…寛ませ！

勇者よ！

勇者

ヒッ

せ……
セイバー！

そなたの人の扱きは
野を油ですぞ

勇者の言葉をどに
耳を傾けるでない

まったく

何の迷宮があって
無い開って来た

勇者はもう
死んだのだ





もし

先生^{せんせい}どこから流れ込んできた
彼の学生

その目で感じた
敗北ではない何か

誰かめなければ



聞きはしないか

……もしも……

君はお始^{はじ}めによって倒され
お始^{はじ}めの証^{しるし}によって
生き残^{のこ}らえた

ユリウスが俺に

……そんな

命^{いのち}分^{ぶん}でも理解^{りかい}できない
感情^{かんじ}に縛^{しば}られてな

お始^{はじ}めには倒^{たふ}されないと
お始^{はじ}めにだけ
倒^{たふ}されるわけにはいかない

救^{すく}いを求^{もと}めているとしたら――







phantasm30

疑念





……

……

……

……

……

……

……

地上

四六時間、秘殺等一八一

秘殺等一八一





西院時間は総力を挙げて
そのターゲットを斬断
すにはいっつかの
災害価値をも意識していた



我が主

我が王よ



さっさと先行侵入した悪者団の
えらみぶきを二、三回叩き
西院時間の手は、この
区から始まる



貴方に我が剣を捧げます

西院時間は
セラフに送る前のエージェントに
有利な見返を
予め契約させることに
成功した





「アサリン、コリウスも
あなたに会いたかった」



すべては僕が
聖杯戦争を勝ち込み
聖杯を地上に持ち帰るため



「アサリンとの
関係は
どうですか？」

「久しぶりです
兄さん」

セラフへ向けて戻つ前日の出来事だった



「よし
あの平瀬に
贈られましたね」



「私の魔力回復でも
十分 便捷に
耐えられるかと」



「はい 問題はありません」

「断りもある男ですが
契約を交わした以上
命令には従う模様」





お話を……
貴方は完璧だ
このように私と接するのは
よくありません

兄は……不器用な人だった

ここから出たら
普段通りの顔も無いを

周りの誰よりも
真実に耐えているのに
自分の心を隠し通す

兄の様子が変わったのは
あの事件の後からだ

今まで周囲を利己なかった
事件だったか

兄の様子を見て

僕は

好意心を
示されなかった

兄さん
セリフに接してば
こうして会話するの
最後になるでしょう

その前に
貴方に
尋ねたいことが
あります

アリシア……

僕の母が
暗殺された時の
ことです

あの事件は
ハーウェイの
反魂分子の仕業で
処理されましたが

兄さんも
あの件に関わって
いたのですか……

なぜ
そう思うのです……

當時の兄さんの
立場からです

貴方は例を志願出来ると
するための準備にいて
それを隠すししか
命を聞く方法はなかった

母の死に
関連できる人間は
隠られていましたし

……それに

母は

苦痛を感じさせない方法で
命を奪われていましたから



アリスは
私が手を下しました

……



理由はあなたの
立場を鑑みと
すためのもの

私を嫌い
恐おろが
構いません

処罰があれば
受けましょう

いいえ 兄さん
そういう感情は
僕にはありません

今の僕が
ここに立って
いるのも

兄さんたちが
暗殺していた
おかげですから

好意心が湧きました
このことは忘れますね





じつのところ 僕は



しかし
兄さんの眼は



知りたかった

兄の忠義心

兄の関心が

どこに向かって
いるのかを……

僕とは違うところを
見ているようでした



レオ……
あなたはミリヤスを
救いたかったのですわ



救う……

それは
命の救済の
ことでしょうか

兄さんが
西面財閥の婿になって
死のことは
最初から決まっていた
誰もそう願っていません

命は救えません

ただひとつ
兄さんに救いが
あるとすれば



兄さんの苦悩を
理解できる人間が
いることですわ

僕にはそれが
できなかった







岸波……俺にお前を殺させてくれッ……



んんんん——んん
んんんんんんんんんんんん





これがあの
アサシンなのか？

技に誇りが

微塵も
感じられぬ



あるのは
狂気

そうか…

貴種
パーサーカーの
クラスで
出現したな



アサシンと
パーサーカーの
クラスを併せ持つ

二重属性





今なら
あの時
自分がとった行動が
理解できる

お前の中にあの頃の
アイシタさんを
救えなかった後悔



俺に救いを
求めているなら

俺にできることは
これしかない

セイバー……
終わらせてくれ

✂

いいだろっ

慈悲だ

その凶拳 その軌を

今度こそ

断ち切りますわっ

ホーリーアー
ム・オブ・キーン

門を開け

救済の扉

開

び!!!

招き蕩う

黄金劇場



無二打

手向けだ！

受け取れ！！



アレッシア

あなたの声を
聞くのは

ねぇ
ユリウス！

久しぶりだ

あの子も

守ってね





海渡……

そうか

俺は

また
お前に
負けたんだぞ……



ユリウ又

静かな顔だ

俺を
悩んでいるのか

……
決断の時
に
お前は死なな
い

俺はど
こか
誰かと
会
っている

……
そうだと
も
お前が
見
失
か
し
た
と
お
り
だ

……
本
当
は
ハ
ー
ク
ム
イ
や
誰
か
を
も
ど
り
で
も
よ
か
っ
た

……
幼
い
頃
ま
だ
俺
が
居
た
頃
た
っ
た
ひ
と
り
名
を
呼
ん
で
く
れ
た
女
が
い
た

……
不
要
で
す
ら
な
い
あ
っ
て
は
な
ら
な
い
と
生
き
る
機
会
が
な
い
と
言
わ
れ
た
俺
に
――
命
の
意
味
を
教
え
て
く
れ
た
女
だ

……
だ
が
……
娘
女
は

あつけなく死んだがな
あつけなく――

弟を守ってくれと
頼んだ相手に
殺されたんだ――

……あれは いつの世だっただろう
や と思うと まるで映画のようで
現実感がない

いや――本当に映画だったのだろう
出来の悪い 悪質な
笑い話のような出来事だった

だがそれが僕の目的になった
僕は 女の泣いた顔を叶え――

――彼女の元に
逝きたかった



この手を血に染め続ける様を
人は神鬼と恐れ 敬慕した

それでも動かかった
俺は神鬼の願いを
叶えようとする自分になら
ず 意識を失ってしまっていたから

だがお前は
俺の意識を壊しながら
俺の手を差し伸べた



なぜだ？

なぜ
お前は
俺を憐れんだ？



ユリウス

君の心に
触れたからだ



そんなことを言われたのは
生まれて初めてだ

これまで誰に送っていたのも書信
面々ながら 別開方法を習得するが
おれ（？）もくたはるかの
どちらかだった



だが——
そうだ お前は真の道でに
彼の面を見つめていたな

どんな闇の中でも
絶望の淵に立たされても
その瞳には強い光が
宿っている——



俺は
そんなお前が嫉ましかつた

嫉まし
かつたんだ

お前ならきつと
アリンアを喰う道を
諦めなかつただろうと

30...

お前が
差し出した手の

摩波

答えた







エピソード
extra episode
はじめよ！







勝校って
こんな感じ
だったわけ！

いつにない
優しいヤないか
マスタ！

折衷案

むー！
つまらぬ

イケメンです
ご主人さま



ワガママ
許すのも
今度だけ
だからね

猫耳の奴は
サーヴァント
だからだ

あのまま
おめうんたわつしと
いざおめうんたわつしと



前言
撤回！



なッ...

マスターが
調子をも
悪いといふなんて
いいわい
何れかについているんだ

ごめんね
お前は調子も
悪いといふんだ

しゅん
人はいきなりでさういふ

それ

それ

それ

そうか...
読めたぞ

調子も悪くしている事のために
調子も悪くする
読んでいるのだぞ

なんといふらしい

私は言いたいのは
調子も悪くする

一人とも
関係している
ようですが

アしを
見せようか

くすん



んんんんんんんんんん



みなさん、
このおみやげを
お持ち帰り
お楽しみください
お楽しみに！

何回聞いた
ことをすると
思いますが……



あれはきつる……

集中の助方のために
こしらえた
ものをのびです……



意中の
殿方——

!?











おまけの
はくのろん



くろき
赤セイロ





BOOK★WALKER